

南浦和中だより

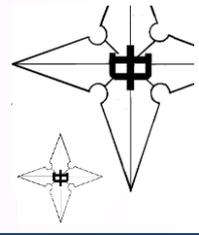
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『思い出がいっぱい』



校長 おお ころ うち のり かず 大河内 範一

私の2年間の教頭人生は、「小学校」だった。ずっと中学校で指導していたので、何もかもが新鮮で、とても貴重な体験だった。当時の様子を記したものが残っているので、あの時のキラキラした風景を思い出しながら、ちょっとだけ紹介したい。

1年生 生活科の授業で、児童から直撃インタビューを受けた。取材時間を大幅に延長し、自分の過去から私生活に至るまで赤裸々に語ったのだが、その児童に「ちゃんと覚えているの？」と確認したところ、『好きな食べ物はチョコレート』しか覚えていない…。と悲しそうな顔で言っていた。

2年生 図工の時間が自習だったので、その先生の代わりに粘土を扱う授業を行った。男子児童が「口から炎を出す怪獣をつくるんだ！」と張り切っていたものの、あまりにも大きな炎にしてしまい、重量がありすぎて頭が下に垂れ、太い炎が地面に付いてしまった。それを見た隣の児童が「気分が悪くなって吐いているみたいだね…。」と真顔でつぶやいていた。

3年生 昼休みに、学校図書館から出てきた男子児童との会話。「教頭先生、うんこの本を借りました！」「へえ、うんこが好きなの？」「はい！」「へえ、そうなんだ、よかったね！」もう少し教育効果のある言葉掛けができなかったものかと深く反省した。

4年生 教室に行って児童たちと一緒に給食を食べた時、「校長先生になると、検食という昔の『お毒見役』みたいな仕事があって、みんなより先に食べることができるんだよ」と教えてあげたところ、「もし学校で毒が盛られたら犯人がすぐに特定されるはずだ」とか、「校長先生を狙うとしたらいったい誰なのか」などと勝手な推測が展開され、大騒ぎになってしまった。

5年生 「館岩自然の教室」に引率で行った時、私が持っていた資料を女子児童が覗き込み、漢字で書いてある私の氏名を発見して、「教頭先生の名前は『おおかない』っていうんですね！初めて知りました！」と嬉しそうに話し掛けてきた。

6年生 図工の時間に版画を教えていた時、男子児童がなぜか版画絵の具を縦に大きく振ったところ、床から壁に掛けて、見事に一直線に飛び散ってしまった。その壁を見て、「学校でスプラトゥーンだ！」と、児童たちは大喜びだった。

さいたま市では、小・中学校間の円滑な接続を図るために、「小・中一貫教育」を継続的に取り組んでおり、とてもよい効果が得られている。前述のエピソードを読むと、小学生のあどけなさや無邪気さを感じられ、微笑ましく思えるだろう。そして、中学生の皆さんの姿を見ると、子どもから大人へと着実に成長しているんだなあ、と本当に頼もしく感じる。自分の昔の姿を、時々思い出してみるのも面白いかもしれないね。